

令和 6 年度高松市生涯学習事業の 推進状況について

教育委員会 教育局 生涯学習課

1 生涯学習を取り巻く環境

人生100年時代の到来により、市民一人一人が、生涯にわたり心豊かに生きがいのある人生を送るためには、多様な学習ニーズに対応できる環境づくりが求められています。

一方で…

➤ 生涯学習を取り巻く環境の多様化・複雑化

様々な課題

- ・ 少子化、核家族化の進行等、家族を取り巻く社会環境の変化による**家庭の教育力の低下**
- ・ 人間関係の希薄化、コミュニケーションの減少等による**地域の教育力の低下**
- ・ 様々な理由で**困難を抱える人々**への学びの機会の提供
- ・ 新型コロナウイルス感染症をきっかけとした**学習方法の多様化**

など

2 本市における生涯学習の推進状況の管理について

本市では、生涯学習を取り巻く環境の多様化・複雑化を踏まえ、令和4年3月に策定した「生涯学習の今後の推進方針」の4つの重点項目を盛り込み、より効果的な生涯学習施策の推進に取り組んでいるところです。

令和6年度からは、新たに策定された「第7次高松市総合計画」、「第3期高松市教育振興基本計画」の中に、生涯学習・社会教育に関する目標や施策等を盛り込み、関連事業の推進状況を管理しています。

「生涯学習の今後の推進方針」に定める 4つの重点項目

- ア 学びを通じた人づくり、地域づくりの推進
- イ 社会全体で子どもを育てていくための家庭・地域の教育力の向上
- ウ 様々な理由で困難を抱える人への学びの機会の提供
- エ ポストコロナを視野に入れた新たな学びの形への転換

第3期高松市教育振興基本計画における施策体系

基本目標	施策の基本方向	具体的な施策の展開
Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上	1 家庭・地域の教育力の向上	(1) 家庭の教育力の向上
		(2) 地域の教育力の向上
	2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進	(1) 地域とともにある学校づくりの推進
		(2) 学校を核とした地域づくりの推進
	3 青少年の健全育成の推進	(1) 青少年を健全に育む環境づくりの推進
		(2) 情報モラル教育の推進
Ⅳ 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり	1 多様な学習機会の充実	(1) 生涯学び活躍できる機会の提供
		(2) 新たな手法を活用した学びの推進
	2 生涯学習施設・機能の充実	(1) 学習施設・機能の充実

3 本市における生涯学習事業の評価について

(1) 評価の概要

本市の生涯学習施策を総合的かつ効果的に推進するため、各課で実施している事業について、評価を実施しました。

(2) 評価対象事業

「第7次高松市総合計画」（令和6年度から令和13年度）の施策体系に基づく事務事業のうち、「第3期高松市教育振興基本計画」の基本目標Ⅲ「家庭・地域とともに育む教育力の向上」及びⅣ「生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり」に関連する事業（90事業）

（なお、内部管理的な事業や義務的な事業など、評価になじまないと判断する事務事業は除外する。）

3 本市における生涯学習事業の評価について

(3) 評価方法

客観的評価（70点満点）と主観的評価（30点満点）の合計100点満点で評価を行います。

《総合点》	80点以上・・・・・・・・・・	A評価
	60点～80点未満・・・・・・・・	B評価
	60点未満・・・・・・・・・・	C評価

客観的評価（70点満点）

事務事業の目的がどの程度達成されたのかを測定する、**成果指標**（最大2指標、各35点満点）の達成度による評価
※指標が1つの場合、点数を2倍

主観的評価（30点満点）

以下の3項目（各10点満点）による評価
妥当性：市民ニーズや社会情勢を考慮した、事業の目的や手法の妥当性
有効性：上位施策目標及び住民福祉の向上への貢献度
効率性：費用対効果

3 本市における生涯学習事業の評価について

(4) 評価結果

基本目標	施策の基本方針	具体的な施策の展開	事業数	評価別事業数			
				A	B	C	
Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上	1 家庭・地域の教育力の向上	(1) 家庭の教育力の向上	10	10	0	0	
		(2) 地域の教育力の向上	17	16	1	0	
	2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進	(1) 地域とともにある学校づくりの推進	2	1	1	0	
		(2) 学校を核とした地域づくりの推進	2	2	0	0	
	3 青少年の健全育成の推進	(1) 青少年を健全に育む環境づくりの推進	3	3	0	0	
		(2) 情報モラル教育の推進	1	1	0	0	
Ⅳ 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり	1 多様な学習機会の充実	(1) 生涯学び活躍できる機会の提供	66	58	7	1	
		(2) 新たな手法を活用した学びの推進	4	3	0	1	
	2 生涯学習施設・機能の充実	(1) 学習施設・機能の充実	4	4	0	0	
			※総合計	109 (19事業が重複)	98 (17事業が重複)	9 (1事業が重複)	2 (1事業が重複)
			評価ごとの割合 (%)		90.0%	8.9%	1.1%

※評価ごとの割合は、調査対象事業（全90事業）における割合とする 5

4 主な事業

(1) 基本目標Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上
施策の基本方向1 家庭・地域の教育力の向上

ア A評価となった事業

① No.6 「子ども食堂等支援事業」 (子育て支援課)

事業概要	核家族や共働き、ひとり親家庭などの増加に伴い、一人で食事をする「孤食」となる子どもが増えている中、子どもの孤食を防止するほか、安らげる場所を確保するため、子どもたちに無料又は安価で温かく栄養バランスの取れた食事を提供するとともに、地域住民とのつながりの強化や生活環境等についての相談支援、学習・生活習慣についての支援も行う「子ども食堂」の開設や運営に係る費用の一部を補助する。 また、子ども食堂実施団体の基盤・体制の強化を図るため、「たかまつ子ども食堂ネットワーク」と連携を図りながら、企業・個人等とのマッチングや寄附・食材提供等の受け入れなどを促進する。					
客観的評価① (70点満点)	66点	主観的評価② (30点満点)	28点	総合点 (①+②)	94点	評価 A
主な取組と 今後の課題	子ども食堂の実施か所数は増加しているが、利用者数が低迷している団体や、継続が困難になり、実施を取りやめた団体もある。子ども食堂の周知啓発に努め、地域や企業等からの支援を促すことで、継続・安定した地域の居場所を確保する。 令和7年度からは、子ども食堂への補助対象事業を拡充し、更なる子ども食堂の充実と子どもの居場所づくりに取り組んでいる。					

4 主な事業

② No.25 「不登校対策事業」

(総合教育センター)

事業概要	・不登校に関する援助推進委員会への意見具申に基づき、不登校対策事業・教育支援センター（適応指導教室）事業にあたる。 ・不登校を考える会や親の会等を開催するなど、学校と関係機関の連携強化を図る。 ・I C Tを活用した在宅学習支援を進め、不登校児童生徒の学業不振解消や学習習慣定着の支援に努める。 ・不登校児童生徒への自立支援事業を推進する。					
客観的評価① (70点満点)	68点	主観的評価② (30点満点)	28点	総合点 (①+②)	96点	評価 A
主な取組と 今後の課題	令和6年4月に教職員向け冊子「高松市不登校Q&A」と保護者向けガイド「子どもが学校に行きたくないと言ったら」を発行し、不登校対応の共通理解を図った。 不登校児童生徒数は増加を続けており、教育支援センター「虹の部屋」では、3学期には曜日限定して受け入れることになった。今後は、教育支援センターをはじめ、多様な学びの場の提供が課題となっている。					

4 主な事業

(2) 基本目標Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上
施策の基本方向2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

ア A評価となった事業

① No.8 「放課後子ども教室事業」 (子育て支援課)

事業概要	放課後等に子どもたちの安心安全な活動場所を確保するため、地域の協力を得ながら、各校区に、コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーターなどを配置し、学び、スポーツ、文化活動、地域の方々との交流活動等を行う。 対 象：小学校1年生～6年生 実施場所：小学校の余裕教室、体育館、運動場、図書室、コミュニティセンター等 実施時間：平日 放課後～午後5時、土曜日・日曜日等 午前9時～正午					
客観的評価① (70点満点)	68点	主観的評価② (30点満点)	20点	総合点 (①+②)	88点	評価 A
主な取組と 今後の課題	子ども教室への参加児童数については、複数回参加する児童が増えたことで、目標を達成できたが、登録児童数については、コミュニティ協議会の会長等が集まる総会において、事業について説明を行い、新たに2校区のこども教室が開設(内1校区は、復活)されたが、目標を達成することはできなかった。 事業委託先である地域の関係団体を組織する構成員の高齢化に伴い、人材の確保・育成が課題となり、新規開設が困難となっている状況ではあるが、今後も、実践的かつ多様な研修を実施し、人材を育成することにより、事業の充実を図るとともに、未実施校区の関係団体に対し、教室開設の働き掛けを継続し、新規開設校区の増加を図る必要がある。					

4 主な事業

② No.28 「学校・地域連携システム推進事業」

(学校教育課)

事業概要	学校運営協議会を各小・中学校に設置する。地域連携システムにおける学校運営協議会は、学校が、保護者や地域の住民に対し、学校運営に関して、活動内容を報告したり、意見や支援活動を求めることで、当該学校のよりよい教育の実現に取り組む。					
客観的評価① (70点満点)	68点	主観的評価② (30点満点)	26点	総合点 (①+②)	94点	評価 A
主な取組と 今後の課題	学校運営協議会で学校から保護者や地域の住民に対して協力依頼を行い、見守り活動や家庭科での実技補助、掲示物作成など、幅広い活動で学校と地域が連携して学校運営に携わることができている。 地域との連携に関して、学校間による差が見られることが課題である。					

4 主な事業

③ No.3 1 「地域学校協働活動推進事業」

(生涯学習課)

事業概要	「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域で活動する様々な住民等の参画を得て、地域と学校が連携して、社会全体で子どもの学びや成長を支える「地域学校協働活動」を推進するため、地域と学校の実情を理解し、双方をつなぐことができるコーディネーターを配置したモデル事業を令和6年度から8年度まで実施し、その効果検証も踏まえて、9年度から本格実施する。					
客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	26点	総合点 (①+②)	96点	評価 A
主な取組と 今後の課題	モデル校においては、地域や学校がそれぞれ意識して活動し、これまでの取組や意識の見直しが行われるとともに、新たな取組などが見られた。また、地域住民や学校の教職員を対象とした研修会では、多数の参加があり、事業の普及促進につながった。 他方で、地域によって抱える課題が異なるため、令和9年度以降の本格実施に向けて、どのような制度構築が効果的か、慎重に検討する必要がある。					

(※施策体系Ⅲ－1－(2)にも該当)

4 主な事業

イ B・C評価となった事業

① No.26 「部活動の地域移行推進事業」

(保健体育課)

事業概要	運動部活動指導従事に伴う教職員負担軽減のため、学校における部活動指導方針に沿い、運動部活動指導員を積極的に配置する。 また、運動部活動の地域展開をスムーズに行うため、合同活動や拠点活動における学校間の調整や、受け皿となる団体の掘り起こしを行うコーディネーターを設置するとともに、検討委員会の設置とモデル事業を行う。						
客観的評価① (70点満点)	— (設定なし)	主観的評価② (30点満点)	18点	総合点 (①+②)	18点	評価	B
主な取組と 今後の課題	運動部活動の地域移行に向けて配置したコーディネーターによる各競技部や生徒への聞き取りのほか、モデル事業を実施した結果等を基に、検討委員会において今後の方針について検討を行った。また、運動部活動指導員を積極的に配置することにより、教員の負担軽減につながった。 今後の方針について、さらに検討を重ね、広く市民に周知できるよう準備を進める必要がある。						

4 主な事業

(3) 基本目標Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育力の向上	
施策の基本方向3 学校を核とした地域づくりの推進	
ア A評価となった事業	

① No.27「子どもの安全確保活動事業」

(少年育成センター)

事業概要		青少年の非行の防止や地域の見守り力の向上のため、学校・地域・市民活動団体と連携し、効果的な情報提供や青色パトロールカーをはじめとした職員による補導活動の充実、健全育成活動の担い手の育成などに取り組んでいる。特にインターネット利用開始の低年齢化が進んでいることから、未就学児の保護者に対して、ネット利用に係る講座の受講を促進する必要がある。また、学生防犯パトロール隊と地域の見守り活動や巡視活動をしている各地区の健全育成団体等をつなぎ、防犯アプリを活用した危険個所の登録方法の習得や地域の危険個所の点検による防犯マップの作成などの防犯活動をさらに充実させ、市民総ぐるみで取り組む「ながら見守り」を展開していく必要がある。					
客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	30点	総合点 (①+②)	100点	評価	A
主な取組と今後の課題		「安全・安心なネット利用」講座の受講を小学校、幼稚園及びこども園に対して積極的に周知した結果、小学校での就学時健康診断や入学周知会での機会を捉えた開催依頼が複数あり、多くの受講者を得られた。今後も多くの受講者を募ることで、家庭の教育力向上とネットを利用した犯罪被害や非行の防止につなげたい。 また、市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数は、地域に対して積極的に連携を呼びかけたものの、目標の達成には至らなかった。今後も引き続き、地域に対して、積極的に連携を呼びかけることで、市民による主体的な健全育成活動につなげたい。					

4 主な事業

(4) 基本目標Ⅳ 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり
施策の基本方向 1 多様な学習機会の充実

ア A評価となった事業

① No.1 8 「障がい者アートリンク事業」							(障がい福祉課)	
事業概要	芸術活動を通じて障がい者の感性・創造力を育み、障がい者の社会参加の促進を図るため、希望する障害福祉サービス事業所等へアーティストを派遣し、創造性の芽を持つ障がい者とアーティストが、長期継続的に関わることで生まれる新しい概念をかたちにする創作活動を支援する。							
客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	30点	総合点 (①+②)	100点	評価	A	
主な取組と 今後の課題	令和6年度は新たに、姉妹都市であるセント・ピーターズバーグ市のNPO法人と本事業を通して作品を共同制作する国際的な交流も行ったほか、複数の事業所でコラボ作品を制作する取組を続けている。今後も参加事業所やアーティストの増加等を図り、障がいのある人への理解や地域社会との交流促進を図る。							

4 主な事業

② No.40 「図書館文化活動事業」

(中央図書館)

事業概要	子どもの読書活動を推進するため、子ども読書まつりや子ども向け講座を開催するほか、子どもを対象としたおはなし会を行うボランティアの技能向上等を図るため、講座・研修会を実施する。						
客観的評価① (70点満点)	68点	主観的評価② (30点満点)	24点	総合点 (①+②)	92点	評価	A
主な取組と 今後の課題	例年実施しているイベントのほか、スパイス教室など新しい取り組みを行い、子どもから大人まで参加できるイベントの実施に努めた。普段図書館を利用しない市民の参加もあり、図書館利用の増加に繋がった。 令和7年度からは、サンクリスタル高松のリニューアル工事に伴い、休館している間、子ども読書まつりをはじめ、様々な行事や講座を中止もしくは会場を変更して実施する。周知などを徹底し、参加人数の増加を目指す。						

4 主な事業

③ No.80 「市民防災力向上推進事業」

(危機管理課)

事業概要	高松防災合同庁舎（危機管理）センター 1 階たかまつ防災プラザ等を拠点に、防災の情報を効果的に発信するとともに、地元ラジオ局での防災啓発番組において防災の情報を効果的に発信し、市民の防災意識の向上を図る。					
客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	24点	総合点 (①+②)	94点	評価 A
主な取組と 今後の課題	ぼうさいまちカフェにおいて、香川大学と協力し、防災をテーマとした講義形式及び体験形式で小学生向けの「防災クッキング」を実施し、多様な形式で開催した。 毎月の実施、防災という専門的なテーマ・内容であること等から、参加者の固定化が発生しているため、香川大学と協力し、多様な形式で開催するとともに、市民が参加しやすいテーマ、内容を検討していく。					

4 主な事業

イ B・C評価となった事業

① No.38 「市民参画促進事業」

(生涯学習センター)

事業概要	市民との協働のまちづくりの視点から、市内で活動する団体等に生涯学習の成果を発表する機会を提供するため、学習成果発表の場事業等を実施し、市民参画の充実を図る。					
客観的評価① (70点満点)	22点	主観的評価② (30点満点)	20点	総合点 (①+②)	42点	評価 C
主な取組と 今後の課題	市民や市民グループがこれまで培ってきた知識や技術の成果を生涯学習の分野でいかす機会として、学習成果の発表の場を提供した。今後も、当該事業を市民等に周知し、新たな発表者を開拓する。また、生涯学習を推進・援助する人材を養成するため、生涯学習コーディネーター養成講座を開催した。今後も、更なる知識・技術の向上につながるよう、講座内容を充実させる。					

4 主な事業

(5) 基本目標Ⅳ 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり

施策の基本方向2 生涯学習施設・機能の充実

ア A評価となった事業

① No.4 1 「サンクリスタル高松リニューアル事業」

(中央図書館)

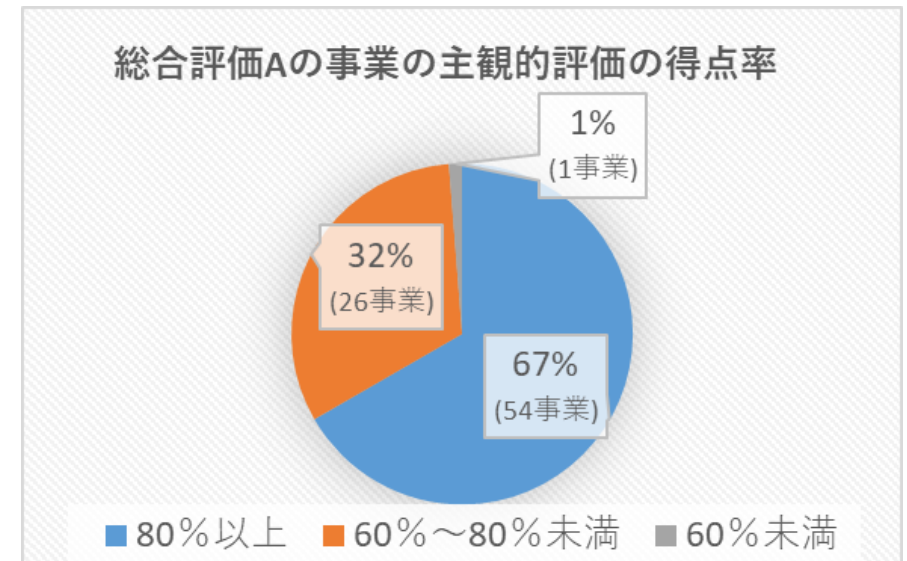
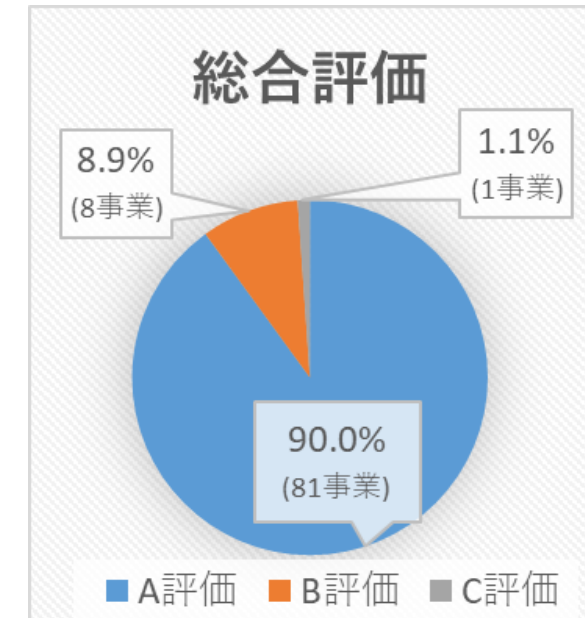
事業概要	平成4年11月に開館したサンクリスタル高松は、開館から30年が経過し、経年劣化による施設の老朽化、特に空調機器等の不調等、設備面の不具合が深刻となっており、今後も安心して利用してもらえる施設とするために早期に改修を行う必要がある。このことから、市民の意見等も取り入れながら、誰もが快適に利用しやすい、若い世代が利用したくなる、地域と密接なつながりを持つ「市民に役立ち愛され地域に貢献するサンクリスタル高松」を目指すほか、ゼロカーボン等の環境負荷の低減も考慮した施設整備事業を実施する。					
客観的評価① (70点満点)	66点	主観的評価② (30点満点)	24点	総合点 (①+②)	90点	評価 A
主な取組と 今後の課題	施設の将来的な在り方や整備の方向性を取りまとめた「サンクリスタル高松リニューアル基本構想」に基づき、令和6年度においては、施設整備の実施設計、図書館情報システムの再構築を実施したが、菊池寛記念館及び歴史資料館に係る実施設計については、関係機関との協議に日数を要したことにより、翌年度に繰り越した。 今後は、令和7年度に改修工事に着手し、令和9年度秋ごろのリニューアルオープンを目指す。					

5 評価結果の総括と今後の課題

(1) 評価結果の総括

令和6年度における生涯学習事業を評価した結果、評価対象事業（全90事業）の90%に当たる81事業がA評価となりました。一方でB・C評価となった事業のほとんどが、施策体系Ⅳ-1-(1)に該当する事業となっており、講座等への参加者数が目標に満たなかったことなどが要因として挙げられます。

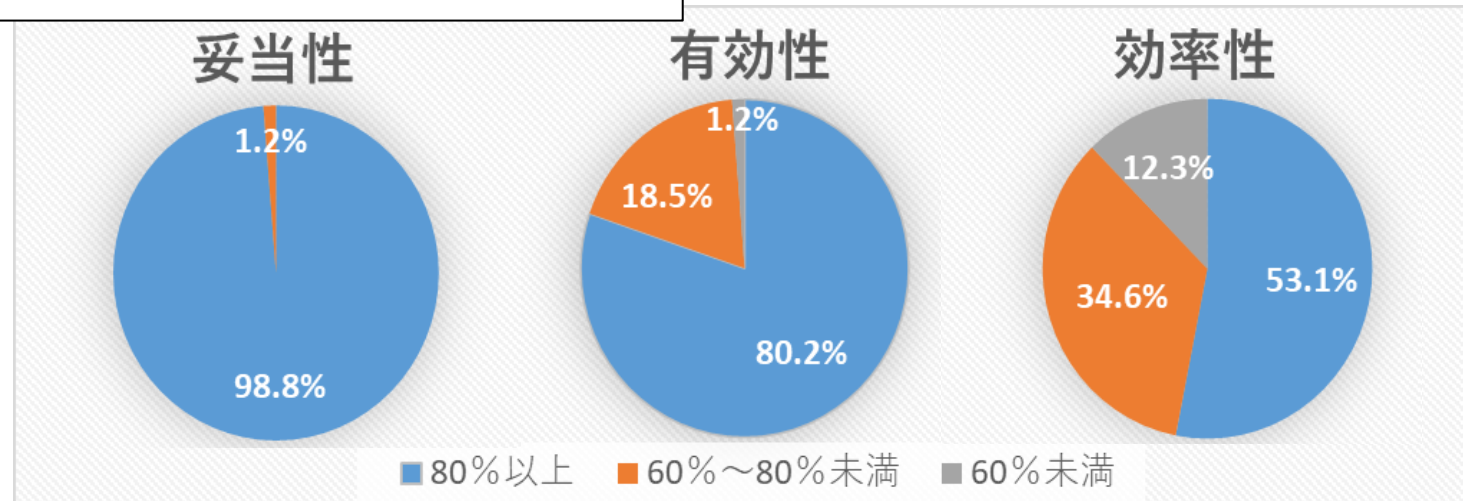
また、A評価となった事業について、客観的評価では、全ての事業が80%以上の得点率となっているのに対し、主観的評価では、27事業が80%未満の得点率となっています。



5 評価結果の総括と今後の課題

該当する27事業について、主観的評価における3項目では、妥当性は、ほとんどの事業が80%以上の得点率となっているのに対し、有効性・効率性の項目では、評価が低くなる傾向がありました。どの事業も必要性は高いことから、今後、事業を継続的に実施していくに当たっては、効果や効率性について改善の余地があることが伺えます。

A評価となった事業における主観的評価3項目の割合



有効性・効率性の評価が低い要因には、個別の状況のほか、複数の事業に共通して見られる、事業の特性などによるものが考えられます。

5 評価結果の総括と今後の課題

例 1： 学習機会の提供や啓発事業として、一定の参加者等の確保はできているが、その範囲が限定的であることなどにより、効果や効率性が低くなっていると考えられる事業

① No.36 「生涯学習推進事業」

(生涯学習センター)

実施状況	市民の多様な学習ニーズに対応する、現代的課題に関する講座や大学等と連携した専門講座、他団体と連携した講座などを開催しており、受講人数や年齢層に、より広がりを持たせることが課題										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	22点	妥当性	10	有効性	6	効率性	6

② No.55 「卸売市場活性化推進事業」

(市場管理課)

実施状況	市場フェスタや特別開放とともに、卸売市場の役割や流通の仕組みを周知・啓発するため、小学生を対象に夏休み市場DE自由研究なども開催しており、来場者に、より広がりを持たせることが課題										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	22点	妥当性	8	有効性	8	効率性	6

今後の対応： リピーターの確保だけでなく新規開拓を積極的に行うとともに、効率的な手法に見直しながら、幅広い市民に波及させていくことが必要

5 評価結果の総括と今後の課題

例 2：一定の成果は上げているものの、人口減少などの社会的要因や住民の価値観の変化等に十分に対応していないことなどにより、効果や効率性が低くなっていると考えられる事業

① No.46 「文化交流推進事業」

(人権教育課)

実施状況	地区文化センターで各種講座のほか体験や交流の機会を提供する教室を開催し、住民の教育水準の向上や自立意識の高揚を図っており、周辺地域の住民も対象とした、より開かれた事業運営が課題										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	63点	主観的評価② (30点満点)	20点	妥当性	10	有効性	6	効率性	4

② No.89 「コミュニティ推進事業」

(協働コミュニティ推進課)

実施状況	高松市コミュニティ連合会への運営補助金の交付、地域コミュニティに携わる人材育成を目的とした人材養成事業等を実施しており、住民の意識の変化や担い手の持続的な確保への対応が課題										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	22点	妥当性	8	有効性	6	効率性	8

今後の対応：実情に応じ内容や手法を見直すことで、より効果を高めることが必要

5 評価結果の総括と今後の課題

例3：市民の生活の質を高めたり、社会的損失を軽減したりするために重要な事業であるが、対象者の意識の醸成に時間を要するなどにより、効果や効率性が低くなっていると考えられる事業

① No.21 「地域保健推進事業」

(健康づくり推進課)

実施状況	地域での主体的な健康づくりを推進するとともに、地域及び企業等に健康運動指導士等を派遣して運動教室を開催するなどしており、長期的に市民の健康寿命の延伸につなげることが課題										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	68点	主観的評価② (30点満点)	22点	妥当性	8	有効性	8	効率性	6

② No.85 「プラスチックごみ対策事業」

(ゼロカーボンシティ推進課)

実施状況	世界的な問題であるプラスチックごみ削減のため、清掃体験と環境学習を組み合わせたフィールドワーク、学習会や啓発パネル展などを実施しており、効率的な環境保全意識の醸成が課題										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	22点	妥当性	10	有効性	8	効率性	4

今後の対応：短期的に効果が表れにくいため、実施手法等を見直しながら、幅広い市民に継続的な働きかけを行うことが必要

5 評価結果の総括と今後の課題

例 4 : 個別の状況が要因と考えられる事業

① No.30 「子どもを中心にした地域交流事業」 (生涯学習課)

実施状況	コミュニティ協議会や子ども会、PTA等複数の団体に構成する実行委員会が取り組む、子ども、保護者及び地域の大人が交流する事業に対する助成事業で、令和7年度で事業は終了										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	70点	主観的評価② (30点満点)	15点	妥当性	8	有効性	6	効率性	1

今後の対応：助成対象地域の減少等により事業は終了するが、地域学校協働活動を推進することで地域交流の機会を創出し、自走可能な形での発展的な取組に移行する

② No.39 「図書館運営事業」 (中央図書館)

実施状況	市内全域を網羅する図書館ネットワークの整備や蔵書の確保と情報提供の充実に努め、身近に利用できる図書館環境の整備に取り組んでいるが、市民の読書離れの傾向に歯止めがかかっていない										
総合評価	A	客観的評価① (70点満点)	61点	主観的評価② (30点満点)	20点	妥当性	6	有効性	6	効率性	8

今後の対応：読書活動は、知識の獲得を始め想像力や思考力、コミュニケーション能力の育成等のため全ての世代にとって不可欠であり、様々な取組により市民の読書環境を確保する

5 評価結果の総括と今後の課題

(2) 今後の課題

今後は、効果的な情報発信や、事業内容の充実だけでなく、事業の実施方法等についても、見直しを行い、より効率的・効果的に生涯学習事業を実施していくことが求められます。